

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22021

「学ぶ力」	
成果	課題
◇ICT や視覚的な掲示物によって思考が可視化され、意見の整理や児童同士の交流が活発化した。 ◇振り返りを次時の導入に生かし、単元の見通しをもたせたことで、児童が主体的に学ぶ授業構成が実現した。 ◇発達段階に応じた振り返りの指導や継続的な振り返りから、自己の変容を自覚し表現する力が高まった。	◇深まった姿の具体を共有した上で全体交流などの手立てを見直し、意図をもった対話を生み出す必要がある。 ◇導入を工夫し時間を捻出し、十分な振り返りと課題解決の時間を確保するべきだった。 ◇振り返りは毎時の実施は難しいが、単元の重要な局面に意図的に位置付けるなど、振り返りの方法等の改善が必要。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇子どもが互いの発言を関連付け、教師が全体に広げることで、「つながり」が生まれた。しかし、他者の発言を受けて思考を広げる姿やつながりを自覚する場面が乏しく、学びの深まりに課題が残る。 ◇異学年交流の「ひまわり活動」では、他者意識をもった活動を通して、児童のつながりを深めていきたい。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

相互理解を生み出す対話の場を創出し、自ら学習の調整をして解決に向かう力

	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
取組	(1) 単元を通した課題 単元を通した課題を意識しながら学習を進めていくことで、子どもが自ら解決する見通しをもてるようにする。 (2) いきいきと伝え合う学習 子ども自身が何のために話し合うのか目的を意識することによって、互いによく聞き合い、体験や考えを共有する喜びを経験させる。 (3) リフレクションの充実 リフレクションの機会を設定することで、成長や学びの進捗を自覚し、次の学びに意欲的になるようにする。	①ひまわり自治会を設置 「自分が大切にされていると実感できる学校づくり」に向けて、自分たちの手で学校をつくっていくために5・6年生を中心に、全校で活動する。 年間4回の活動で、後半には4年生も運営に参加し、次年度に繋げる。 ②パートナー校との連携 パートナー校とそれぞれの自治的な活動を報告しながら、将来的にパートナー校同士で力を合わせ、地域に貢献できる活動を目指す。
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	◇ICT の特性・強みを生かした1人1台端末の活用 ・課題の自己解決に向けた情報の収集。多様で大量の情報の取扱いについて、適切に情報を選択して活用する力もつけていく。 ・意見や作品の交流・共同編集など、協働的な活用を進めていく。	

<本プログラムの実行に向けて>



